

【第3分科会】教育環境整備に関する課題

<p>提言1 研究主題</p>	<p>学校運営に関するICTの有効な活用について ～働き方改革の推進を目指して～</p>
<p>提言者</p>	<p>基山町立基山小学校 教頭 山内 ともこ</p>
<p>協議の柱</p>	<p>学校運営においてどのようなICT利活用が教職員の働き方改革につながるか</p>
<p>協議内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・転勤しても同じように使えるよう、校務システムの全県下での共通化を図っていくことが大切である。 ・いじめアンケートなどをアンケート作成アプリケーションで行うと集計等無駄な時間を省くことができ、とても便利である。 ・ICT支援員の担当時間が市町で随分違うことが分かった。ICT支援員に教材作成をお願いできると現場はとても助かる。 ・職員会議資料をPDFにしてペーパーレス化を図っている。印刷・配付の手間は省けるが、紙媒体ではないため、手に取って見返すことができない。 ・緊急連絡をアプリケーションで行いたいが、スマートフォンを使っていない人もいるので導入に迷っている。 ・保護者連絡についてアプリケーションを導入しているが、登録していない保護者もあり、デジタル（メール配信）とアナログ（紙媒体）が混在し、二度手間となっている。 ・ICTを熱心に活用することにより、その活用のための技術が高度化し、業務の負担となっている面もある。 ・個人あての文書等はネットワーク上の私書箱に入れるようにし、印刷等の手間が省け、文書管理が改善された。 ・ICT支援員に教材作成等をお願いすることで、働き方改革につながっている。 ・イベントのチラシ等配付物がとても多い。これらをPDFにしてメール配信することで、教師の負担軽減につなげている。 ・ICT支援員自作のシステムなど有益なものは、県内共通で使えるようにしていったらどうか。 ・児童の欠席連絡をアプリケーションで行うことで、電話での連絡が減り、余裕が生まれた。
<p>提言2 研究主題</p>	<p>「ふるさとを愛し 未来を切り拓く たくましい児童生徒の育成を目指した魅力ある学校づくり」 ～地域や学校をつなぐ、協働的な学びの推進を目指した教育環境整備における教頭・副校長の役割～</p>
<p>提言者</p>	<p>玄海みらい学園 教頭 野崎 征久</p>
<p>協議の柱</p>	<p>地域の教育資源（人 もの こと）と学校をつなぐ際の副校長・教頭の役割</p>
<p>協議内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域をつなぐために、どこまで教頭が役割を果たすのか、連絡・調整をどの程度すべきなのか戸惑うことがある。 ・コミュニティ・スクール、PTA、教員OBの力を活用して教頭の負担を減らすことも考えられる。 ・学校主体、地域主体、いずれのやり方にしても、学校としてはその活動を通して児童・生徒にどのような力をつけさせるのか、またその手立てをどうするのかに注力して、児童生徒の成長の部分に目を向けることを忘れずに取り組みたい。 ・転任したばかりなどで、その地域を知らないままに地域との連携をしていくのは難しいため、教頭の交代があってもスムーズに引き継いでいける形での連携方法を考えていく必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が明け、当初の行事がどんどん戻る中で、地域行事をやればやるほど地域から喜ばれたり、子どもたちが生き生きとしたりすることは期待されるが、「負担感」という点で、働き方改革も含めて考えると復活行事を何でも受け入れていいものか悩ましい。新しいものを入れたら古いものを削るというような行事の精選が必要である。戻ってくる行事をどこまで戻すかを調整するのも教頭の役割として重要であると考えている。 ・教頭の負担を軽くするには、各学年のカリキュラムをバランスよく配置して担任の負担を軽くする必要がある。 ・校区によってつなぎ方は変わってくる。中学校は部活を地域に任せるなどのやり方などがある。部活動の地域移行なども絡めて考えて職員の異動の影響を受けない持続可能なプランを考える必要がある。 ・「地域連携室」や「まちづくり協議会」があり、公民館職員等が学校と地域行事とのコーディネートをしてくれるところもある。地域の人材バンクとつないでくれるコーディネーターが1人いてくれると助かるのではないかな。
指導助言者	西部教育事務所 指導主任 森 泰樹
助言内容	<p>○ICTに関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中での利活用は進んできている。しかし、校務、教務における利活用が各市町単位のみで工夫されているにすぎないので、教育事務所からも発信していきたい。 ・コロナ禍で対面での授業等が行えない中、知恵を絞ってオンライン授業等の体制を整えていった体験から、「何ができて、何ができないのか」を考えていくことが重要と感じた。 ・職員会議のPDF化は有効だが、画面からすぐ消えてしまうのはデメリットである。メモを残しやすなのは紙媒体であるので、利活用の仕方をしっかりつかむことが重要である。 ・情報発信はとても重要だが、情報漏洩には細心の注意が必要。(個人情報や保護者の了承など) ・システムの共有化は必要だと再認識したが、市町が予算をつけて取り組んでいることとの調整も必要だと感じた。これは県の役割なので、先生方も市町に要望を伝え続けてほしい。 ・山内ともこ先生(基山小)1年目の研究としてまとめ、問題提起されているので、再検討し、今後何に取り組んでいけるのかを確認するなど共有してほしい。アンケート結果の分析等で分かってきたことも次のステップとしてしっかりと問題点を受けとめた形で検証してほしい。 <p>○地域との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさとを愛する」子供たちが目に浮かんだ。 ・教頭の役割として重要なことについて、この研究のように「見える化」してまとめられていることや、目的意識をもった実践が行われていることがとても重要であると感じた。 ・実践には「何をやって何をやらないのか」「何と何を一緒にできるのか」等を考えていく必要があり、最終的には「子供たちにどんな力を身につけさせたいか」が何より重要であると考えている。 ・コミュニティ・スクールについては、その形をとられていなくてもできることの可能性はいろいろとありそうだと感じた。 ・コミュニティ・スクールはずいぶん活発になってきているが、負担軽減を考えて役割分担されることが必要だし、教頭の負担を考えても校務の多忙化が進んではいけないので注意が必要である。 ・子供たちのいきいきとインタビューに答える姿が分かりやすい「変容」ともいえるので、職員のモチベーションにつなげるためにもこういう姿を残して伝えてほしい。 ・各学校の取組も提言として受け止めた。各学校へ課題及びヒントとして持ち帰ってほしい。